

2009年度決算説明会

2010年4月30日

株式会社村田製作所



1. 2009年度 業績概要

2009年4月～2010年3月
連結累計期間

業績概況(2009年度通期)

	2008年度 通期		2009年度 通期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	5,239	100.0	5,308	100.0	+69	+1.3
営業利益 (▲損失)	▲ 163	▲ 3.1	267	5.0	+430	—
税引前利益 (▲損失)	▲ 103	▲ 2.0	347	6.5	+450	—
当期純利益	36	0.7	248	4.7	+212	+590.0

製品別売上高(2009年度通期)

	2008年度		2009年度		増減	
	通期		通期			
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,806	34.6	1,789	33.8	▲17	▲0.9
圧電製品	763	14.6	823	15.6	+60	+7.8
その他コンポーネント	1,033	19.8	982	18.6	▲51	▲4.9
通信モジュール	1,066	20.5	1,231	23.2	+164	+15.4
その他モジュール	549	10.5	464	8.8	▲85	▲15.6
製品売上高計	5,218	100.0	5,288	100.0	+70	+1.3

製品別売上高概況

コンデンサ (前期比▲0.9%)	<ul style="list-style-type: none">・ チップ積層セラミックコンデンサ：全ての用途で数量ベースでは大幅増となるものの、値下げと為替の影響で金額ベースでは微増・ 用途特化型品：PC及び関連機器向けで大きく減少
圧電製品 (前期比+7.8%)	<ul style="list-style-type: none">・ ショックセンサ(HDD向け)、超音波センサ(バックソナー向け)、圧電スピーカ(携帯メディアプレイヤー向け)、アクチュエータ(ディーゼルエンジン向け)：各用途で大幅に増加・ 表面波フィルタ：数量ベースでは大幅増となるものの、値下げと為替の影響で金額ベースでは微減
その他コンポーネント (前期比▲4.9%)	<ul style="list-style-type: none">・ EMI 除去フィルタ：ゲーム機向け、薄型テレビ向けで減少・ コイル、コネクタ：通信機器向けを中心に好調・ アイソレータ：携帯電話向けで大幅に減少・ ジャイロセンサ：デジカメ向け、デジタルビデオカメラ向けで減少
通信モジュール (前期比+15.4%)	<ul style="list-style-type: none">・ 無線LANモジュール：携帯電話向け、携帯メディアプレイヤー向けで大幅増・ 多層デバイス：携帯電話向け、データカード向けで好調・ 通信機器用モジュール：携帯電話向けで大幅増
その他モジュール (前期比▲15.6%)	<ul style="list-style-type: none">・ 電源：プリンタやコピー機などの事務機器向け、サーバー向けで大幅減少

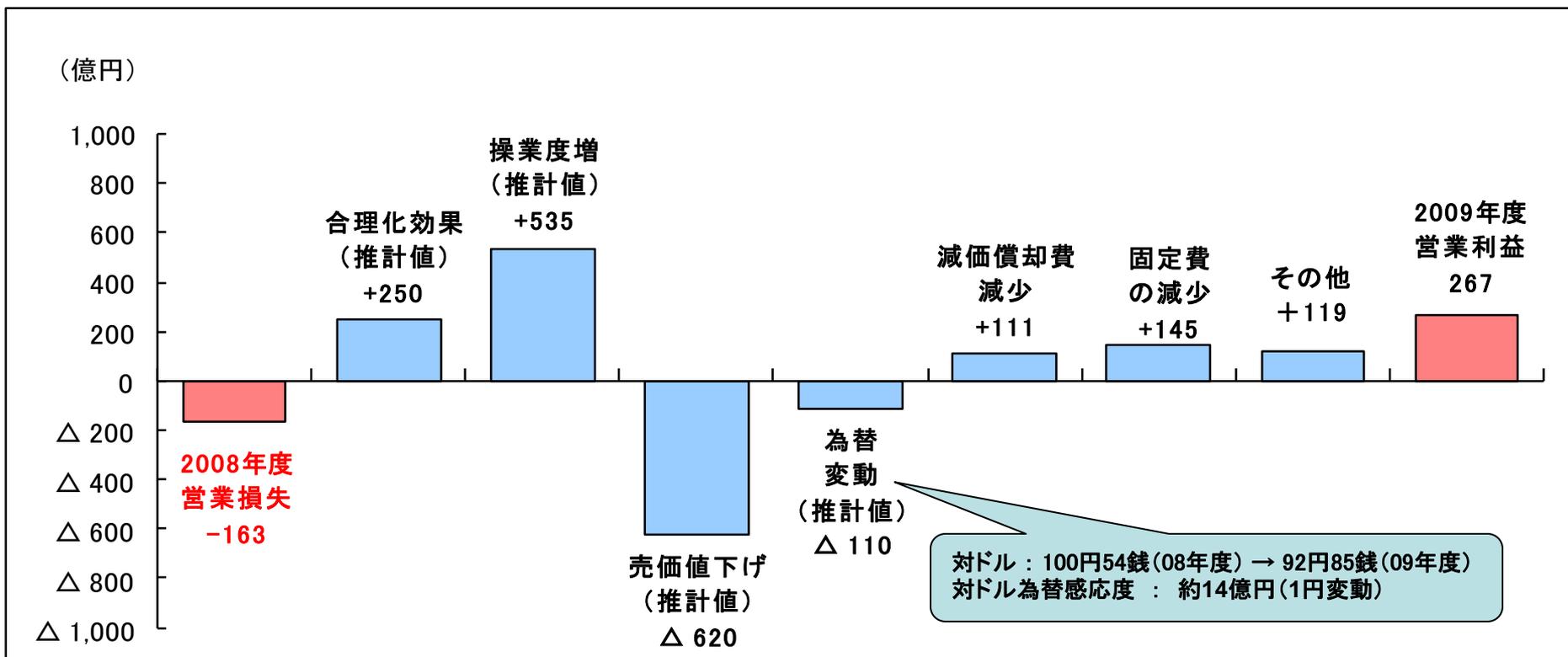
用途別売上高(2009年度通期)

	2008年度		2009年度		増減	
	通期		通期			
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
AV	755	14.5	801	15.1	+45	+6.0
通信	2,271	43.5	2,288	43.3	+17	+0.8
PC及び関連機器	1,011	19.4	942	17.8	▲68	▲6.7
カーエレ	540	10.3	665	12.6	+125	+23.2
家電・その他	641	12.3	592	11.2	▲49	▲7.7
製品売上高計	5,218	100.0	5,288	100.0	+70	+1.3

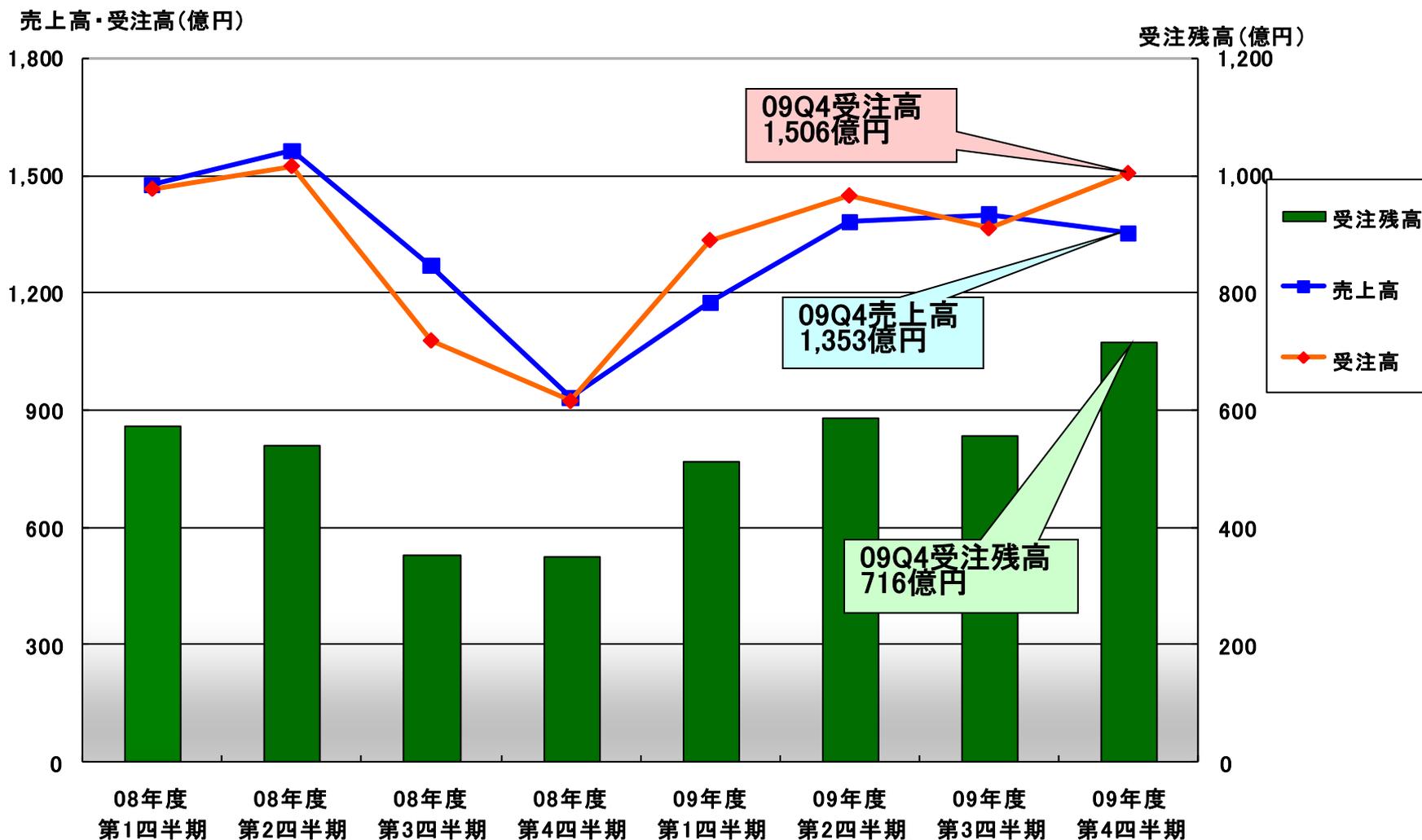
用途別売上高概況

AV機器 (前期比+6.0%)	・ 携帯メディアプレイヤー向け無線LANモジュールが大幅増
通信 (前期比+0.8%)	・ スマートフォン、第3世代機向けに無線LANモジュール、通信機器用モジュールが大幅に増加 ・ 携帯電話向け表面波フィルタ、アイソレータが減少
PC及び関連機器 (前期比▲6.7%)	・ HDD向けショックセンサは大幅増となるものの、MPU向けコンデンサ、事務機器及びサーバー向け電源の落ち込み大
カーエレ (前期比+23.2%)	・ ディーゼルエンジン向けアクチュエータ、バックソナー向け超音波センサが大幅増

2008年度→2009年度 営業利益変動要因



売上・受注・注残推移(四半期)



2. 2010年度 業績予想

(2010年4月～2011年3月)

部品需要予測(AV、通信)

薄型TV

1. 7億台(2009年度) → 2. 2億台(2010年度)

携帯電話

12. 6億台(2009年度) → 13. 8億台(2010年度)

うち、

2G : 9. 3億台(2009年度) → 9. 5億台(2010年度)

3G : 3. 3億台(2009年度) → 4. 3億台(2010年度)

部品需要予測(PC及び関連機器)

PC

3.4億台(2009年度) → 3.9億台(2010年度)

うち、

ノートブック : 2.0億台(2009年度) → 2.5億台(2010年度)

デスクトップ : 1.4億台(2009年度) → 1.4億台(2010年度)

HDD

6.0億台(2009年度) → 7.3億台(2010年度)

製品別売上予想

	2009年度実績 (前期比)	2010年度予想 (前期比)
コンデンサ	▲0.9%	+16%程度
圧電製品	+7.8%	+11%程度
その他コンポーネント	▲4.9%	+16%程度
通信モジュール	+15.4%	横這い
その他モジュール	▲15.6%	+13%程度
計	+1.3%	+11%

用途別売上予想

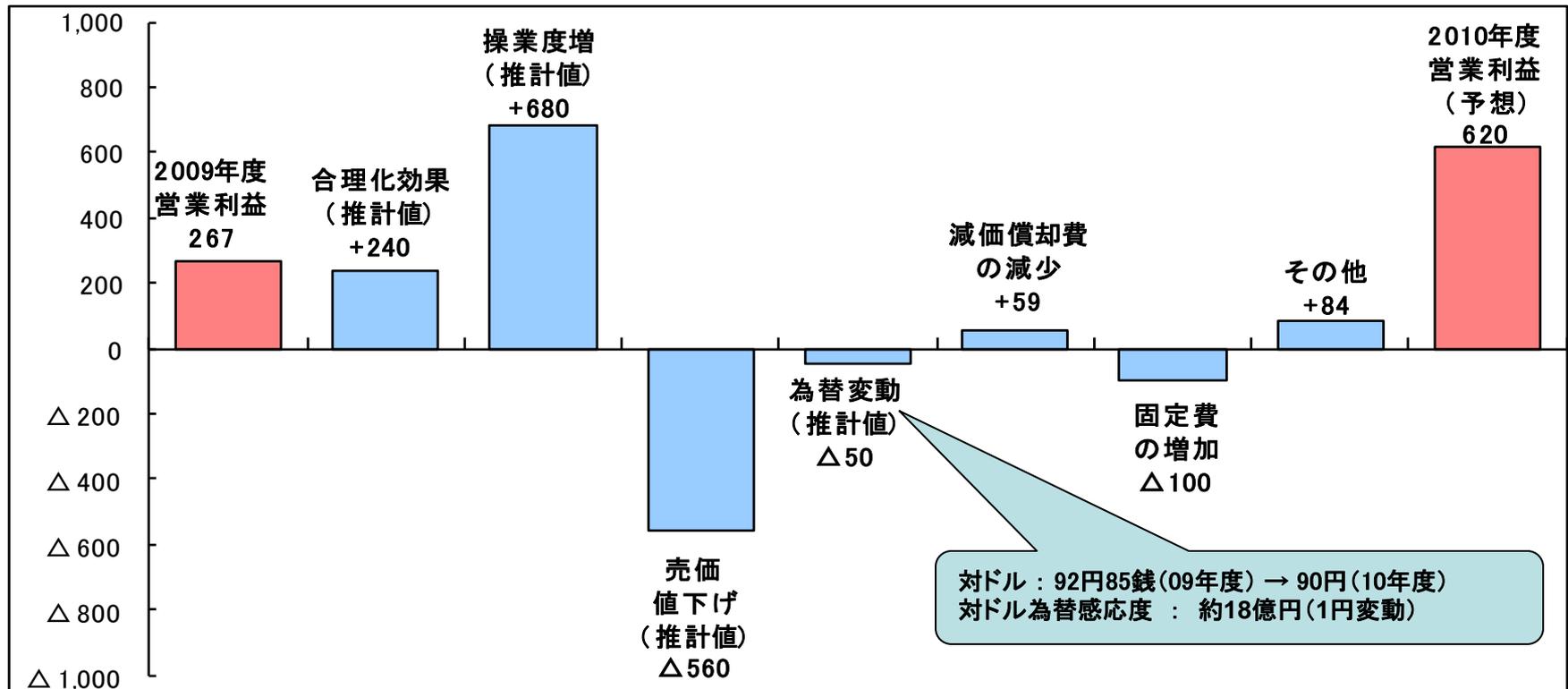
	2009年度実績 (前期比)	2010年度予想 (前期比)
AV	+6.0%	+4%程度
通信	+0.8%	+11%程度
PC及び関連機器	▲6.7%	+17%程度
カーエレ	+23.2%	+12%程度
家電・その他	▲7.7%	+12%程度
計	+1.3%	+11%

2010年度の業績予想

	2009年度		2010年度				増減	
	実績		上期 予想	下期 予想	通期予想			
	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	伸率
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)		(億円)	(%)
売上高	5,308	100.0	3,000	2,900	5,900	100.0	+592	+11.1
営業利益	267	5.0	330	290	620	10.5	+353	+131.9
税引前利益	347	6.5	350	310	660	11.2	+313	+90.4
当期純利益	248	4.7	230	210	440	7.5	+192	+77.7

2009年度→2010年度 営業利益変動要因

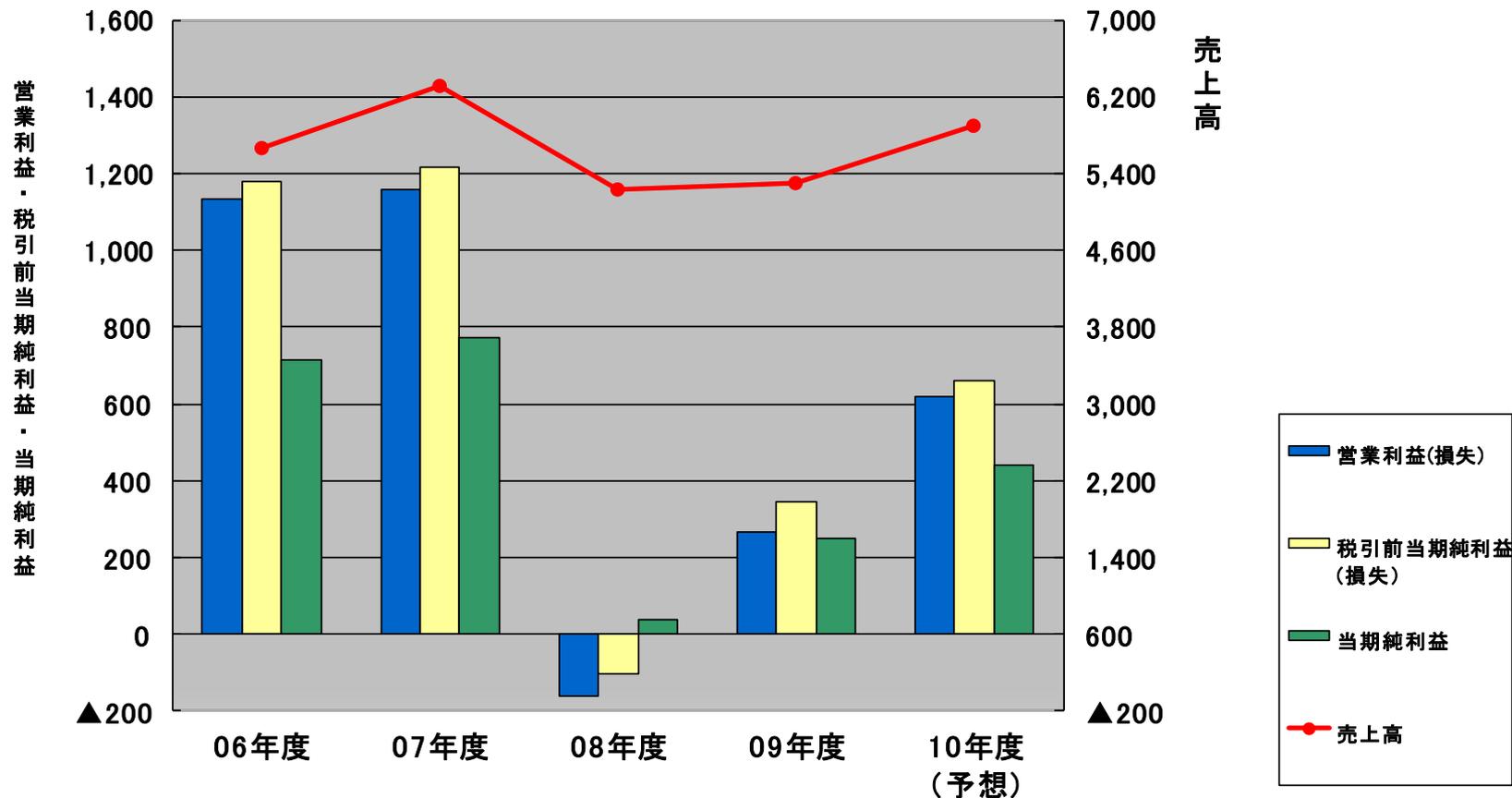
(億円)



業績推移(通期)

(億円)

(億円)



業績予想の前提

	2009年度 実績	2010年度 予想
減価償却費	699億円	640億円
研究開発費	416億円	415億円
設備投資額	229億円	450億円
為替レート(対米ドル)	92.85円	90.00円
為替レート(対ユーロ)	131.16円	125.00円

**2010年度(2011年3月期)の配当(予定)
1株当たり年間100円(うち中間配当50円)**

**2009年度(2010年3月期)の配当
1株当たり年間70円
(中間配当35円/期末配当予定35円)**

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。